

# 精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名：鹿児島県立始良病院連携施設 精神科専門医研修プログラム
  
- プログラム担当者氏名：堀切 靖  
住 所：〒899-5652 鹿児島県始良市平松 6067  
電話番号：0995-65-3138  
F A X：0995-65-8044  
E-mail：aira-hpf@po.minc.ne.jp
  
- 専攻医の募集人数：( 2 ) 人
  
- 応募方法：  
履歴書を Word または PDF の形式にて，E-mail にて提出すること。  
電子媒体でのデータのご提出が難しい場合は，郵送にて提出すること。  
・E-mail の場合：aira-hpf@po.minc.ne.jp 宛に添付ファイル形式で送信。  
その際の件名は，「専門医研修プログラム応募」とする。  
・郵送の場合：〒899-5652 鹿児島県始良市平松 6067 鹿児島県立始良病院宛に簡易書留にて郵送すること。また，封筒に「専門医研修プログラム応募書類在中」と記載する。
  
- 採用判定方法：  
専門研修プログラム総括責任者が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い，採用の適否を判断する。

## I 専門研修の理念と使命

### 1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

### 2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

### 3. 専門研修プログラムの特徴

専門研修基幹施設となる鹿児島県立始良病院は、県下唯一の公立単科精神科病院であり、存続する公立精神科病院としては、東京都立松沢病院に次いで長い歴史のある病院である。鹿児島市から車で約30分の始良市平松に位置し、病床数は267床、応急入院指定病院および医療観察法外来通院指定病院、医療観察法入院指定病院の指定を受け、精神科救急基幹病院であるため、鹿児島県の精神科救急医療の中核を担っている。また、平成22年7月に医療観察法入院治療病棟を開棟し、各種の精神鑑定を引き受けるなど司法精神科医療の中核的病院である。精神科医11名、精神保健指定医8名が勤務し、MECT、クロザピンなどの精神科特殊治療にも積極的に取り組み、また、精神科リハビリテーションも充実しており、コメディカルスタッフは、臨床心理士3名、精神保健福祉士9名、作業療法士8名が勤務し、平成21年4月からデイケアを開始している。臨床研修病院としての指導実績も豊富で、指導医数及び症例数は十分であり、臨床精神科医としての実力を向上させることができることに加え、学会参加や発表の機会も多く、大学院での研究や論文作成も奨励しており、リサーチマインドを持った精神科医の養成にも力を入れている。

この専門研修プログラムは、鹿児島県立始良病院が専門研修基幹施設、鹿児島大学病院及び公益財団法人慈愛会谷山病院が専門研修連携施設となっている。いずれの病院も臨床研修病院としての指導実績が豊富で、指導医数及び症例数は十分であり、臨床精神科医としての実力を向上させることができる。

## II. 専門研修施設群と研修プログラム

### 1. プログラム全体の指導医人数・症例数

- プログラム全体の指導医数：23 人
- 平成 26 年度のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	924	220
<b>F1</b>	240	108
<b>F2</b>	1571	684
<b>F3</b>	1048	227
<b>F4 F50</b>	600	81
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b>	89	20
<b>F6</b>	43	12
その他	418	71

### 2. 連携施設名と各施設の特徴

#### A 研修基幹施設

- ・施設名：鹿児島県立 始良病院
- ・施設形態：公立単科精神科病院
- ・院長名：山畑 良蔵
- ・プログラム統括責任者：山畑 良蔵
- ・指導医人数：（ 8 ）人
- ・精神科病床数：（ 267 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	74	9
<b>F1</b>	145	57
<b>F2</b>	425	238
<b>F3</b>	392	108
<b>F4 F50</b>	171	5
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b>	15	2
<b>F6</b>	12	1
その他	53	21

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は県下唯一の公立単科精神科病院であり、存続する公立精神科病院としては、

東京都立松沢病院に次いで長い歴史のある病院である。鹿児島市から車で約30分の始良市平松に位置し、病床数は267床、応急入院指定病院および医療観察法外来通院指定病院、医療観察法入院指定病院の指定を受け、精神科救急基幹病院であるため、鹿児島県の精神科救急医療の中核を担っている。また、平成22年7月に医療観察法入院治療病棟を開棟し、各種の精神鑑定を引き受けるなど司法精神科医療の中核的病院である。

精神科医11名、精神保健指定医8名が勤務し、MECT、クロザピンなどの精神科特殊治療にも積極的に取り組み、また、精神科リハビリテーションも充実しており、コメディカルスタッフは、臨床心理士3名、精神保健福祉士9名、作業療法士8名が勤務し、平成21年4月からデイケアを開始している。

臨床研修病院としての指導実績も豊富で、指導医数及び症例数は十分であり、臨床精神科医としての実力を向上させることができることに加え、学会参加や発表の機会も多く、大学院での研究や論文作成も奨励しており、リサーチマインドを持った精神科医の養成にも力を入れている。

## B 研修連携施設

### ① 施設名：鹿児島大学病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：夏越 祥次
- ・指導責任者氏名：佐野 輝
- ・指導医人数：（ 9 ）人
- ・精神科病床数：（ 40 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	231	45
<b>F1</b>	12	5
<b>F2</b>	328	46
<b>F3</b>	339	32
<b>F4 F50</b>	268	33
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b>	59	12
<b>F6</b>	8	2
その他	289	34

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は715床を有する大規模な総合病院で、鹿児島県では唯一の特定機能病院であ

ることから、地域医療の最後の砦としての役割を担っており、当科は身体合併症や周産期、治療困難な症例の紹介を受け入れている。当院は鹿児島県がん診療連携拠点病院であり、院内の緩和ケアチームに精神科医が常勤医として勤務しており、緩和ケアにおける精神科医療を経験できる。さらに、他科からの紹介は多く、リエゾン・コンサルテーション精神医学の臨床実践を指導医とともに主体的に参加することができる。物忘れ専門外来では、認知症専門医でもある指導医の診断・治療に陪席することができる。認知症を含む器質性精神障害（F0）、統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）などの鑑別困難例や難治性症例を中心に治療にあたり、修正型電気けいれん療法は麻酔科医と連携し安全に実施している。診療体制として、7～8名の医師から編成される3つの臨床グループで担当患者の治療にあたり、毎週グループカンファレンスが行われている。毎週入院患者の全体カンファレンスや診療科長による回診が行われている。また、入院及び外来症例検討会や認知症カンファレンス、精神科面接勉強会、精神病理勉強会、司法精神医学勉強会など幅広い分野における研修会が実施されている。

② 施設名：公益財団法人慈愛会 谷山病院

- ・施設形態：民間単科精神科病院
- ・院長名：福迫 剛
- ・指導責任者氏名：福迫 剛
- ・指導医人数：（ 6 ）人
- ・精神科病床数：（ 392 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
<b>F0</b>	619	166
<b>F1</b>	83	46
<b>F2</b>	818	400
<b>F3</b>	317	87
<b>F4 F50</b>	161	43
<b>F4 F7 F8 F9 F50</b>	15	6
<b>F6</b>	23	9
その他	76	16

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は民間単科精神科病院で、392床の精神科病床を有する。そのうち40床は、精神科急性期治療病棟であり、精神科救急システムの地域拠点病院として、地域

の精神科救急に貢献している。また、認知症疾患医療センターであり、認知症治療病棟を有し、認知症の診断・治療を積極的に行っている。アルコール依存症に対するリハビリテーションプログラムを提供し、断酒会を行っている。結核患者収容モデル事業として 5 床の精神科病床に精神疾患を持つ結核患者の受入れも行っている。難治性の精神疾患に対して、修正型電気けいれん療法やクロザピンを用いた治療を行っている。グループホーム、地域活動支援センター、就労支援センターを有しており、デイナイトケア、訪問看護とともに、地域で生活する精神障害者を支えている。以上のように、当院では、地域精神科医療のすべてを学ぶことができる。

### 3. 研修プログラム

#### 1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接，2.疾患概念の病態の理解，3.診断と治療計画，4.補助検査法，5.薬物・身体療法，6.精神療法，7.心理社会的療法など，8.精神科救急，9.リエゾン・コンサルテーション精神医学，10.法と精神医学，11.災害精神医学，12.医の倫理，13.安全管理。各年次の到達目標は以下の通りである。

#### 到達目標

1年目：専門研修連携施設で，指導医と一緒に統合失調症，気分障害，器質性精神障害の患者等を受け持ち，面接の仕方，診断と治療計画，薬物療法及び精神療法の基本を学び，リエゾン・精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに，良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し精神科面接勉強会に参加する。院内研究会や学会で発表・討論する。

2年目：専門研修連携または基幹施設で，指導医の指導を受けつつ，自立して，面接の仕方を深め，診断と治療計画の能力を充実させ，薬物療法の技法を向上させ，精神療法として認知行動療法と力動的療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。

3年目：専門研修連携または基幹施設で，指導医から自立して診療できるようにする。認知行動療法や力動的療法の精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法，精神科リハビリテーション・地域精神医療，司法精神医学，精神科救急医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

#### 2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは，「専攻医研修マニュアル」（別紙），「研修記録簿」（別紙）を参照

#### 3) 個別項目について

##### ① 倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任

や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

## ② 学問的姿勢

すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、学会発表や学内誌などへの投稿を進める。

## ③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

## ④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

専門研修基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

## 4) ローテーションモデル

典型的には1～2年目に専門研修連携施設である鹿児島大学病院をローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につける。とくに、身体合併症・リエゾン、器質性精神障害、認知症などを多く経験し、生物学的検査・神経心理検査などの検査手法を習得する。2または3年目には専門研修基幹施設である鹿児島県立始良病院または専門研修連携施設である公益財団法人慈愛会谷山病院を1年間ローテートし、救急精神科医療や地域精神科医療、司法精神医学などを幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。これら3年間のローテート順や期間については、専攻医の希望に応じて柔軟な対応が可能である。主なローテーションパターンについて、別紙1に示す。

## 5) 研修の週間・年間計画

別紙2と別紙3を参照。



#### 4. プログラム管理体制について

- プログラム管理委員会

- 委員長 医師：山畑 良蔵
- 医師：佐野 輝
- 医師：福迫 剛
- 医師：中村 雅之
- 医師：堀切 靖
- 医師：寿 幸治
- 医師：春日井 基文
- 看護師：田畑 知子
- 精神保健福祉士：益口 由加利

- プログラム統括責任者

山畑 良蔵

- 連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

#### 5. 評価について

##### 1) 評価体制

鹿児島県立始良病院：山畑 良蔵  
鹿児島大学病院：佐野 輝  
公益財団法人谷山病院：福迫 剛

##### 2) 評価時期と評価方法

- 3か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

##### 3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回行う。

鹿児島大学病院にて専攻医の研修履歴（研修施設，期間，担当した専門研修指導医），研修実績，研修評価を補完する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

－専攻医研修マニュアル（別紙）

－指導医マニュアル（別紙）

・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し，一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により，指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って，各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない，指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って，各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」，「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し，翌年度の研修に役立たせる。

## 6. 全体の管理運営体制

### 1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

### 2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

### 3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し，継続的な改良を実施する。

### 4) FDの計画・実施

年1回，プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

## 別紙1 ローテーションパターン

①鹿児島大学病院（専門研修連携施設）（専攻医1，2年目）



鹿児島県立始良病院（専門研修基幹施設）（専攻医3年目）

②鹿児島大学病院（専門研修連携施設）（専攻医1年目）



公益財団法人慈愛会谷山病院（専門研修連携施設）（専攻医2年目）



鹿児島県立始良病院（専門研修基幹施設）（専攻医3年目）

典型的には1，2年目に専門研修連携施設である鹿児島大学病院をローテートし，精神科医としての基本的な知識を身につける。とくに，身体合併症・リエゾン，器質性精神障害，認知症などを多く経験し，生物学的検査・神経心理検査などの検査手法を習得する。2～3年目には専門研修基幹施設である鹿児島県立始良病院または専門研修連携施設である公益財団法人慈愛会谷山病院をローテートし，救急精神科医療や地域精神科医療，司法精神医学などを幅広く経験し，精神療法，薬物療法を主体とする治療手技，精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。これら3年間のローテート順や期間については，専攻医の希望に応じて柔軟な対応が可能である。

## 別紙2：週間研修計画（基幹・連携）

### 週間スケジュール

#### ①鹿児島県立始良病院（専門研修基幹施設）

	月	火	水	木	金
8:30- 12:00	外来業務	修正型電気痙攣療法	外来業務	外勤日	修正型電気痙攣療法
13:00- 13:30	病棟カンファレンス	医局会 入退院カンファレンス	病棟カンファレンス		病棟カンファレンス
13:30- 15:00	病棟業務	訪問看護	アルコール集団療法		デイケア診療
15:00- 17:15	医療観察法病棟 治療評価会議	病棟業務	病棟業務		病棟業務

※外勤日では、地域の精神科病院での外来及び病棟業務を行い、地域精神医療の研鑽を積む。外勤日であっても、電話などで指導医に相談し、指導を受けることができる。

※いずれの施設においても、就業時間が40時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

別紙2：週間研修計画（基幹・連携）

週間スケジュール

②鹿児島大学病院（専門研修連携施設）

	月	火	水	木	金
8：30～ 10：00	外来陪診・ 病棟業務	病棟カンフ ァレンス	外来陪診・ 病棟業務	外来陪診・ 病棟業務	外来陪診・ 病棟業務
10：00～ 12：00		病棟回診			
13：00～ 16：00	病棟業務	医局会 症例検討会	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16：00～ 18：00	グループ カンファレ ンス	病棟業務			
18：00～ 19：00		専門医 勉強会			認知症カン ファレンス

※水・木・金のいずれかが外勤日となる。外勤日では、地域の精神科病院での外来及び病棟業務を行い、地域精神医療の研鑽を積む。外勤日であっても、電話などで指導医に相談し、指導を受けることができる。

## 別紙2：週間研修計画（基幹・連携）

### 週間スケジュール

#### ③公益財団法人慈愛会谷山病院（専門研修連携施設）

	時間	事項
月曜日	9:00～ 13:00 14:00～ 17:00 17:00～ 18:00	入院診療  外来診療（新患）  医局会・症例検討会（月1回）
火曜日	8:45～ 9:00 9:00～ 13:00 14:00～ 18:00	朝カンファ  入院診療  外来診療（再来）
水曜日	8:45～ 9:00 9:00～ 13:00 14:00～ 18:00	朝カンファ  入院診療  外来診療（再来）
木曜日	8:45～ 9:00 9:00～ 13:00 14:00～ 18:00	朝カンファ  入院診療  入院診療
金曜日	8:45～ 9:00 9:00～ 13:00 14:00～ 18:00	朝カンファ  入院診療  入院診療

### 別紙3：年間研修計画（基幹・連携）

#### 年間スケジュール

##### ①鹿児島県立始良病院（専門研修基幹施設）

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	鹿児島精神神経学会参加・演題発表
8月	
9月	
10月	県立病院学会参加・演題発表 専攻医研修中間報告書提出
11月	九州精神神経学会参加・演題発表
12月	鹿児島精神神経学会参加・演題発表
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

### 別紙3：年間研修計画（基幹・連携）

#### 年間スケジュール

#### ②鹿児島大学病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション 専攻医1年目研修開始 専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加（任意）
7月	鹿児島精神神経学会参加・演題発表
8月	
9月	日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	専攻医研修中間報告書提出
11月	九州精神神経学会参加・演題発表
12月	鹿児島精神神経学会参加・演題発表
1月	
2月	
3月	専攻医研修報告書の作成 研修プログラム評価報告書の作成



### 別紙3：年間研修計画（基幹・連携）

#### 年間スケジュール

#### ③財団法人谷山病院（専門研修連携施設）

4月	オリエンテーション 院内医療安全講習会参加
5月	院内行動制限講習会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 院内感染対策講習会参加
7月	鹿児島精神神経学会参加
8月	
9月	
10月	院内医療安全講習会参加 専攻医研修中間報告書提出
11月	九州精神神経学会参加（任意） 院内感染対策講習会参加
12月	鹿児島精神神経学会参加 院内行動制限講習会参加
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成 院内医療倫理講習会参加